

(12) JAPANESE UTILITY MODEL PUBLICATION (U)

(11) REGISTRATION NO. 3078019

(24) Registration Date : March 21, 2001

(21) Application Serial No. 2000-8492

(22) Filing Date : November 30, 2000

(73) Right Holder : IRIS OHYAMA, Inc.

(72) Inventor : HATAKE (晶)

(54) Title of the Invention : SMALL ANIMALS DELIVERY
EQUIPMENT

A delivery equipment 1 includes a box 3 with an upper open portion 5, a pair of handles 7 and 7 mounted on a side face of the box 3, a mesh closing member 9 for closing the upper open portion 5, a cover plate 11 for covering the mesh closing member 9, a window portion 15 closed by a mesh 13 and mounted on a side face of the box 3, and a window portion cover plate 17 for covering the window portion 15. The box 3 is formed by pasting or sewing plural pieces of tough fabric. The box 3 includes plural pieces of fine core material therein in order to maintain the shape of box 3. The mesh closing member 9 is made with synthetic resin material with softness. A fastener 6 is mounted on the box 3 in order to fasten the mesh closing member 9 to the upper opening portion 5. The cover plate 11 is made with the same fabric as the box 3. The cover plate 11 is wound, which exposes the mesh closing member 9. The cover plate 11 maintains the shape thereof using a maintenance belt 21 with a face fastener 21 fixed to the box 3 at one end of the maintenance belt 21. The mesh 13 is made with synthetic resin material. The window portion cover plate 17 is made with the same fabric as the box 3. The window portion cover plate 17 is wound, which exposes the

window portion 15. The window portion cover plate 17 maintains the shape thereof using a maintenance belt 25 with a face fastener 25 fixed to the box 3 at one end of the maintenance belt 25.

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

実用新案登録第3078019号
(U3078019)

(45)発行日 平成13年 6 月22日 (2001. 6. 22)

(24)登録日 平成13年 3 月21日 (2001. 3. 21)

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I

A 0 1 K 1/035
29/00

A 0 1 K 1/035
29/00

Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21)出願番号 実願2000-8492(U2000-8492)

(22)出願日 平成12年11月30日 (2000. 11. 30)

(73)実用新案権者 391001457

アイリスオーヤマ株式会社

宮城県仙台市青葉区五橋二丁目12番1号

(72)考案者 畠 純子

宮城県角田市小坂字土瓜1番地 アイリス

オーヤマ株式会社内

(74)代理人 100104396

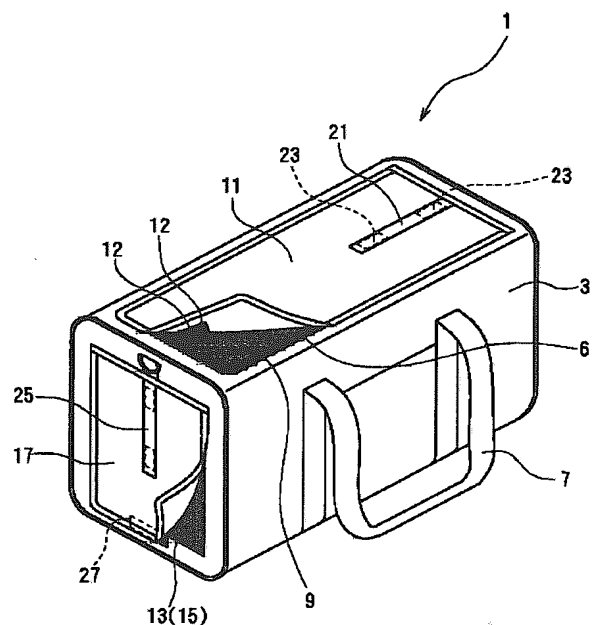
弁理士 新井 信昭 (外1名)

(54)【考案の名称】 小動物運搬具

(57)【要約】

【課題】 運搬の際に雨や埃が中に入ることや、中にいる小動物に過度のストレスを与えることのない小動物運搬具を提供する。

【解決手段】 小動物を入れたり出したりするための開口部(5)を有する収容体(3)と、収容体(3)に設けられた少なくとも1個の運搬補助部材(7)と、収容体(3)に設けられた開口部(5)を開閉するための網状開閉体(9)と、収容体(3)に設けられた網状開閉体(9)を露出可能に被覆するための被覆板(11)と、から小動物運搬具を構成する。被覆板による網状開閉体の被覆により、収容体の外と中とを遮断することができる。これにより、雨や埃が入ることや小動物にストレスを与えることが防止される。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 小動物を入れたり出したりするための開口部を有する収容体と、
前記収容体に設けられた少なくとも1個の運搬補助部材と、
前記収容体に設けられた前記開口部を開閉するための網状開閉体と、
前記収容体に設けられた前記網状開閉体を露出可能に被覆するための被覆板と、を備えていることを特徴とする小動物運搬具。

【請求項2】 前記網状開閉体が、閉鎖状態のときにファスナーによって前記開口部周縁に固定されるように構成されていることを特徴とする請求項1に記載した小動物運搬具。

【請求項3】 前記被覆板が、丸めたり折り畳んだりできるような柔軟性を備え、丸められ又は折り畳まれたときに前記網状開閉体を露出させるように構成されていることを特徴とする請求項1又は2に記載した小動物運搬具。

【請求項4】 前記収容体が、前記被覆板を丸められ又は折り畳まれた状態で保持するための保持部材を備えていることを特徴とする請求項3に記載した小動物運搬具。

【請求項5】 前記収容体が、網体によって閉鎖された窓部と、当該窓部を露出可能に被覆するための窓部被覆*

2

* 板と、を備えていることを特徴とする請求項1乃至4の何れかに記載した小動物運搬具。

【図面の簡単な説明】

【図1】 運搬具の斜視図である。

【図2】 被覆板を丸めた状態の運搬具の斜視図である。

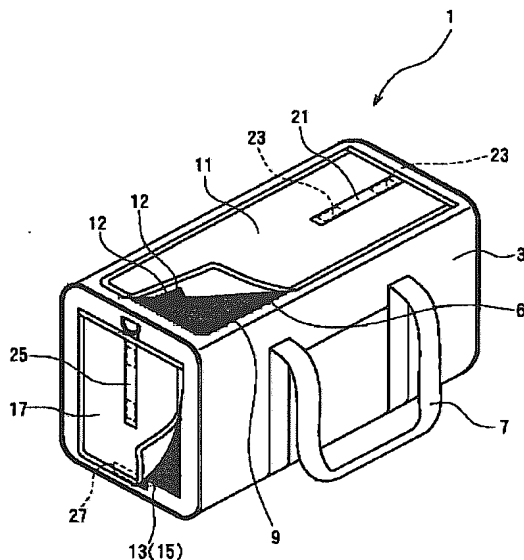
【図3】 網状開閉体を開放させた状態の運搬具の斜視図である。

【図4】 図3の部分拡大図である。

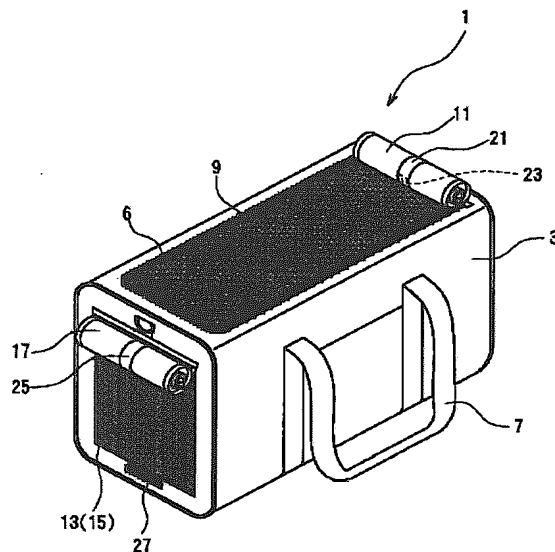
10 【符号の説明】

1	運搬具
3	箱状収容体
5	上端開口部
6	ファスナー
7	取っ手
9	網状開閉体
11	被覆板
12	面ファスナー
13	網体
15	窓部
17	窓部被覆板
21	保持ベルト
23	面ファスナー
25	保持ベルト
27	面ファスナー

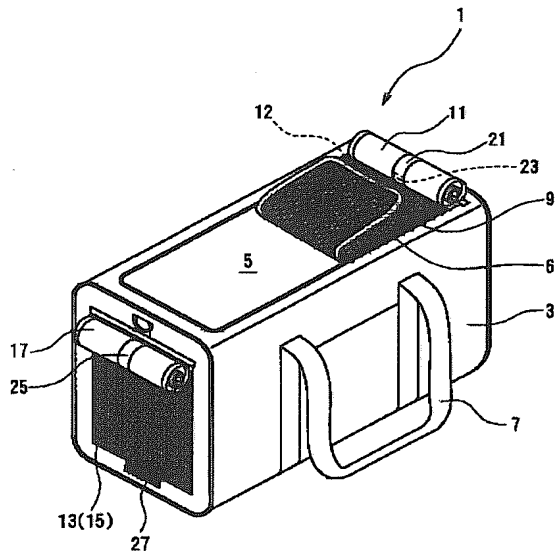
【図1】



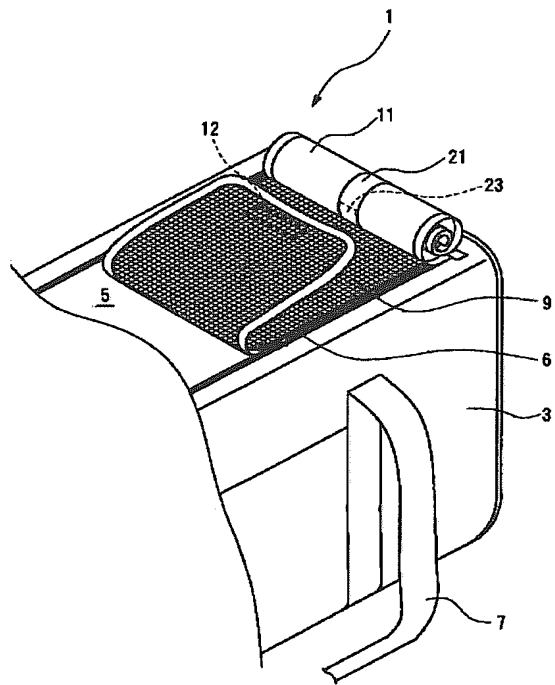
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

この考案は、子犬や子猫などの小動物を収容して運搬するための小動物運搬具（以下、適宜「運搬具」という）に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

これまで知られている運搬具の中には、中に入れた小動物を外から見られるようにすることと、通気性を確保することのために網体で閉鎖された窓部を備えているものがある。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

しかし、外から見られるようにすることと、通気性を確保することは必要なことである一方、運搬の際に雨や埃が運搬具の中に入って小動物にとって好ましくない場合がある。さらに、外から見られるようにすることは、裏返すと中から外が見られる状態にあることである。したがって、運搬の際に外から入る情報が過剰になり、中にいる小動物に過度のストレスを与えてしまう場合がある。本考案が解決しようとする課題は、上述した事態を改善することのできる小動物運搬具を提供することにある。

【0004】**【考案が解決しようとする課題】**

上記した課題を解決するために本考案は、次の構成を備えている。なお、何れかの請求項の考案の説明において行う用語の定義等は、その性質上可能な範囲において他の請求項における考案の説明にも適用されるものとする。

【0005】

（請求項1に記載した考案の構成）

請求項1に記載した考案に係る小動物運搬具（以下「請求項1の運搬具」という）は、小動物を入れたり出したりするための開口部を有する収容体と、前記収容体に設けられた少なくとも1個の運搬補助部材（たとえば、取っ手やショルダ

ーベルト)と、前記収容体に設けられた前記開口部を開閉するための網状開閉体と、前記収容体に設けられた前記網状開閉体を露出可能に被覆するための被覆板と、を備えることを特徴とする。

【0006】

(請求項1に記載した考案の作用効果)

請求項1の運搬具によれば、使用者は、運搬補助部材を利用して収容体に入れた小動物を運搬することができる。小動物を入れたり出したりするための開口部は、網状開閉体によって開閉される。収容体の中を見られるようにするときは、被覆板を除くことにより網状開閉体を露出させておく。除いた被覆板を元に戻すことにより、網状開閉体を被覆して収容体の外と中とを遮断することができる。これにより、小動物に与えるストレスを軽減することができる。また、雨や埃が収容体内へ進入することを防ぐことができる。

【0007】

(請求項2に記載した考案の構成)

請求項2に記載した考案に係る小動物運搬具(以下「請求項2の運搬具」という)は、請求項1の運搬具の構成に限定が加わり、前記網状開閉体が、閉鎖状態のときにファスナーによって前記開口部周縁に固定されるように構成されていることを特徴とする。

【0008】

(請求項2に記載した考案の作用効果)

請求項2の運搬具によれば、ファスナーの作用により網状開閉体が開口部周縁に固定されるので、収容体内の小動物が暴れて下から押し上げたり、運搬の際に揺られたりしても網状開閉体が解放状態になることはない。

【0009】

(請求項3に記載した考案の構成)

請求項3に記載した考案に係る小動物運搬具(以下「請求項3の運搬具」という)は、請求項1又は2の運搬具の構成に限定が加わり、前記被覆板が、丸めたり折り畳んだりできるような柔軟性を備え、丸められ又は折り畳まれたときに前記網状開閉体を露出させるように構成されていることを特徴とする。

【0010】

(請求項3に記載した考案の作用効果)

請求項3の運搬具によれば、請求項1又は2の運搬具の作用効果に加え、柔軟性のある被覆板を丸めたり折り畳んだりすることにより網状開閉体を露出させること、すなわち、収容体の中を見ることができる。逆に、丸めたり折り畳んであった被覆板を元に戻すことにより、収容体の外と中を遮断することができる。

【0011】

(請求項4に記載した考案の構成)

請求項4に記載した考案に係る小動物運搬具（以下「請求項4の運搬具」という）は、請求項3の運搬具の構成に限定が加わり、前記収容体が、前記被覆板を丸められ又は折り畳まれた状態で保持するための保持部材を備えていることを特徴とする。

【0012】

(請求項4に記載した考案の作用効果)

請求項4の運搬具によれば、請求項3の運搬具の作用効果に加え、被覆板が丸められ又は折り畳まれた状態で保持されるので、これを使用者が押えておかなくても網状開閉体を露出させたままにしておくことができる。これにより、収容体内の小動物とのコンタクトがとりやすくなる。

【0013】

(請求項5に記載した考案の構成)

請求項5に記載した考案に係る小動物運搬具（以下「請求項5の運搬具」という）は、請求項1乃至4の何れかの運搬具の構成に限定が加わり、前記収容体が、網体によって閉鎖された窓部と、当該窓部を露出可能に被覆するための窓部被覆板と、を備えていることを特徴とする。窓部は、1個でも2個以上でもよい。

【0014】

(請求項5に記載した考案の作用効果)

請求項5の運搬具によれば、請求項1乃至4の何れかの運搬具の作用効果に加え、窓部の網体を通して小動物とコンタクトが可能になるとともに、窓部被覆板によってこの窓部を被覆することにより、収容体の外と中とを遮断することがで

きる。

【0015】

【考案の実施の形態】

次に、各図を参照しながら、本考案の実施の形態（以下「本実施形態」という）について説明する。図1は運搬具の斜視図であり、図2は被覆板を丸めた状態の運搬具の斜視図である。図3は、網状開閉体を開放させた状態の運搬具の斜視図である。図4は、図3の部分拡大図である。

【0016】

（運搬具の全体構成）

図1乃至4を参照しながら、運搬具の全体構造について説明する。運搬具1は、子犬や子猫などの小動物を入れたり出したりするための上端開口部5を有する箱状収容体3と、箱状収容体3の側面に設けられた一対の運搬用取っ手7、7と、箱状収容体3に設けられた上端開口部5を開閉するための網状開閉体9と、箱状収容体3に設けられた網状開閉体9を露出可能に被覆するための被覆板11と、を備えている。さらに、箱状収容体3の側面には、網体13によって閉鎖された窓部15と、この窓部15を露出可能に被覆するための窓部被覆板17が設けられている。取っ手7、7は、箱状収容体3の中に入れた小動物を運搬するときに、その運搬を補助するための運搬補助部材である。この運搬補助部材は、少なくとも1個あれば足り、その形状に限定はない。本実施形態のように一対の取っ手を設けてもよいし、これに代え、または、これとともに、ショルダーベルト等を設けてもよい。

【0017】

（箱状収容体の構造）

引き続き図1乃至4を参照しながら、箱状収容体3について説明する。箱状収容体3は、全体として厚手で丈夫な布地（たとえば、デニム地）を貼り付けたり縫い付けたりすることにより箱状に形成されている。箱状収容体3の一部又は全部を合成樹脂材のような別素材により構成してもよい。箱状の形態を保つために、箱状収容体3の内部には細い心材（図示を省略する）が配されている。上端開口部5は、箱状収容体3の上面のほぼ領域に渡って矩形状に開口されている。上

端開口部5は、上述したように、その上端開口部5の側方に一端が固定された網状開閉体9によって開閉されるようになっている。

【0018】

(網状開閉体の構造)

図1乃至4に示すように、網状開閉体9は、上端開口部5の形状に合わせて矩形状に形成されており、めくることができる程度の柔軟性をもった合成樹脂材により網状に形成されている。網状に形成されているのは、上端開口部5が閉鎖状態のときに十分な通気性を確保するためと、箱状収容体3内を覗いた使用者が、中にいる小動物コンタクトできるようにするためである。なお、網状開閉体9は、少なくとも一部が網状になっていればよく、必ずしも全部が網状になっている必要はない。網状開閉体9の周縁と上端開口部5の周縁との間に、両者を互いに固定するためのファスナー6が設けられている。このファスナー6は、矩形の網状開閉体9の三辺に渡って設けられており、これにより、網状開閉体9の三方が上端開口部5の周縁から解放されるようになっている。網状開閉体9がファスナー6により固定されることにより、箱状収容体3内の小動物が暴れて下から押し上げたり、運搬の際に揺られたりしても上端開口部5が開放状態になることはない。

【0019】

(被覆板の構成)

次に、図1乃至4を参照しながら、被覆板11について説明する。被覆板11は、デザインを統一するために箱状収容体3と同じ布地により、網状開閉体9より僅かに大きな矩形状に形成されている。このように形成することにより、被覆時に網状開閉体9を完全に被覆できるし、箱状収容体3との一体感を生じさせることができるからである。布製である被覆板11は、丸めたり折り畳んだりするのに十分な柔軟性を備えている。このため、図2に示すように、丸めることにより網状開閉体9を露出させることができる。さらに、この丸めた状態の被覆板11は、一端が箱状収容体3に固定された保持ベルト21によりその状態で保持されるようになっている。すなわち、保持ベルト21には面ファスナー23、23が取り付けられており、これらを着脱自在に固定することにより被覆板11を丸

めた状態に保持するようになっている。他方、図1に示すように上端開口部5が閉鎖されているときの被覆板11は、面ファスナー12、12により網状開閉体9に着脱自在に固定されるようになっている。

【0020】

(窓部の構成)

図1乃至3を参照しながら、窓部について説明する。前述したように、窓部15は、箱状収容体3の側面に開口されており、合成樹脂製の網体13によって閉鎖されている。この窓部15は、デザインと統一するために被覆板11と同じ素材により構成された窓部被覆板17により被覆されるようになっている。図2に示すように窓部被覆板17は、被覆板11と同様に丸めることができ、これにより、窓部15を露出させられるようになっている。また、丸められた窓部被覆板17は、保持ベルト25により丸められた状態で保持されるようになっている。なお、この窓部15は、網状開閉体9とともに、より通気性を確保し、小動物とのコンタクトをよりとりやすくするために設けられている。そのようにする必要がない場合等の事情があるときには、この窓部15を省略してもよい。また、この窓部15を、上端開口部5のように、開閉自在に構成してもよい。

【0021】

(本実施形態の作用効果)

運搬具1を使用すると、小動物を入れたり出したりするための上端開口部5が、網状開閉体9をめくったり元に戻したりすることによって開閉される。箱状収容体3の中を見られるようにするには被覆板11を丸めることにより網状開閉体9を露出させる。丸めた被覆板11は、その状態を保持ベルト21により保持することができる。このようにすると、使用者が箱状収容体3内の小動物とのコンタクトがとりやすくなる。また、被覆板11を元に戻すことにより、網状開閉体9を被覆して箱状収容体3の外と中とを遮断することができる。これにより、小動物に与えるストレスを軽減することができる。同時に、雨や埃が収容体内への進入を防ぐこともできる。窓部15の窓部開閉板17による開閉の効果は、上述した被覆板11の開閉の効果と同じである。

【0022】

【考案の効果】

本考案にかかる運搬具によれば、運搬の際に雨や埃が運搬具の中に入ることや、中にいる小動物に過度のストレスを与えることを防ぐことができる。